

◆「文化薫る魅力と愛着のあるまち」の紹介

名張の城下町の形成は、1585年に伊賀の国主となった筒井定次の家臣であった松倉氏が名張地区の中央台地に名張城を築いた事から始まります。

その後、1636年、伊予国今治から来住した藤堂高吉により本格的な城下町建設が行われました。名張城の跡地に領主の名張藤堂家邸を配置し、その下を流れる川を「城下川」と名付け、外堀の機能を与えています。また、伊予から連れてきた多数の家臣と商人、職人を町に居住させました。そして、外敵の進攻を阻む戦術から、鍵型に屈折した町筋や用水路をつくり、御殿がある高台の斜面には竹藪を張り巡らすなど、小規模ながら城下町（陣屋町）としての形態をもつまちづくりがなされました。

現在でも、藤堂家邸の一部や寿栄神社に移築された御殿の正門である太鼓門、城下川、鍵型の町筋や用水路、竹藪や石垣の跡など、往時の面影が残ります。

また、名張は初瀬街道の宿場町としても発展し、軒を並べた商店も繁栄する町となりました。今も残る初瀬街道のまちなみはこの頃形成されたものと考えられています。

名張絵図 文化三年(江戸末期)



原図は名張市教育委員会蔵

「文化薫る魅力と愛着のあるまち」につながる取組

◆ 名張市旧細川邸「やなせ宿」の整備（平成19年度実施）



整備後



※やなせ宿での取組のようす



◆ 乱歩生誕地碑広場整備（平成20年度実施）



整備後

